重要な情報が記載されています ので、必ずお読み下さい。

金沢市久安3丁目406番地

# 辰巳化学株式会社

HMG-CoA還元酵素阻害剤

# 日本薬局方 アトルバスタチンカルシウム錠 アトルバスタチン錠5mg「TCK」 アトルバスタチン錠10mg「TCK」

# 「使用上の注意」改訂のお知らせ

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 30 年 10 月 16 日付厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知により、アトルバスタチン錠 5mg「TCK」及びアトルバスタチン錠 10mg「TCK」の「使用上の注意」の改訂、並びに自主 改訂を致しましたので、ご案内申し上げます。

何卒ご承知の上、ご使用賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

----- 薬生安通知による改訂箇所 ----- 薬生安通知による削除箇所 ------ 自主改訂による改訂箇所

改 訂 後	改訂前

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)

腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。[横紋筋融解症があらわれやすい。(「相互作用」の項参照)]

### 【使用上の注意】

## 2. 重要な基本的注意

(1)、(2) 現行の通り

(3) 腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい。やむを得ず併用する場合には、定期的に腎機能検査等を実施し、自覚症状(筋肉痛、脱力感)の発現、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグ

### 【使用上の注意】

## 2. 重要な基本的注意

(1)、(2) 省略

# 改 訂 後

ロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇 等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに 投与を中止すること。

(4)、(5) 現行の通り (番号繰り下げ)

## 3. 相互作用

本剤は、主として肝の薬物代謝酵素 CYP3A4 により代謝される。

(1) 併用禁忌 (併用しないこと) 現行の通り

# (2) 併用注意 (併用に注意すること)

<u> </u>	(1/1/131-/2/2003)				
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子			
フィブラート	筋肉痛、脱力	機序:フィブ			
系薬剤	感、CK (CPK)	ラート系薬剤			
ベザフィブ	上昇、血中及	と HMG-CoA			
ラート等	び尿中ミオグ	還元酵素阻害			
	ロビン上昇を	剤との副作用			
	特徴とし、急	誘発性の相加			
	激な腎機能悪	作用が示唆さ			
	化を伴う横紋	れている。			
	筋融解症があ	危険因子:腎機			
	らわれやすい	能に関する臨			
	との報告があ	床検査値に異			
	る。	常が認められ			
		る患者			

# 改訂前

(3)、(4) 省略

# 3. 相互作用

本剤は、主として肝の薬物代謝酵素 CYP3A4 により代謝される。

- (1) 併用禁忌 (併用しないこと) 省略
- (2) 原則併用禁忌 (原則として併用しないこと) 腎機能に関する臨床検査値に異常が認め られる患者では原則として併用しないこ ととするが、治療上やむを得ないと判断 される場合にのみ慎重に併用すること。

される場合に切み限里に併用すること。				
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子		
系薬剤	紋筋融解症が あらわれやすい。自覚症状 (筋肉痛、脱力感)の発現、 CK(CPK)の上 昇、血中及び 尿中ミオグロ	還元酵素阻害 剤との副作用 誘発性の相加 作用 危険因子:腎機 臨 床検 証 の られ		

# (3) 併用注意 (併用に注意すること)

	()//)バーエボッ ひここ/			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子		
フィブラート	筋肉痛、脱力	機序:フィブ		
系薬剤	感、CK(CPK)	ラート系薬剤		
ベザフィブ	上昇、血中及	又はニコチ		
ラート等	び尿中ミオグ	ン酸製剤と		
ニコチン酸製	ロビン上昇を	HMG-CoA 還		
剤	特徴とし、急	元酵素阻害剤		
ニセリトロー	激な腎機能悪	との副作用誘		
ル等	化を伴う横紋	発性の相加作		
	筋融解症があ	用が示唆され		
	らわれやすい	ている。		
	との報告があ	危険因子:腎機		
	る。	能障害		
省略				

改訂後			改 訂 前			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子		薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ニコチン酸製		機序:ニコチ		グラゾプレビル 省略		
剤		ン酸製剤と		省略		
ニセリトロー		HMG-CoA 還				
ル等		元酵素阻害剤				
		との副作用誘				
		発性の相加作				
		用が示唆され				
		ている。				
		危険因子:腎機				
		能障害				
	現行の通り					
グラゾプレビル	グラゾプレビル 現行の通り					
レテルモビル	レテルモビル	機序:レテル				
	との併用によ	モビルによる				
	り本剤の血漿	CYP3Aの阻害、				
	中薬物濃度	本剤の肝への				
	が上昇した	取り込み阻害				
	(Cmax: 2.17	及び乳癌耐性				
	倍、AUC0-∞:	蛋白(BCRP)の				
	3.29 倍) との	阻害が考えら				
	報告がある。	れている。				
	現行の通り					

なお、他の項は現行の通りとする。

# <「原則禁忌」、「原則併用禁忌」の記載について>

一般社団法人日本動脈硬化学会より「HMG-CoA 還元酵素阻害剤(スタチン)とフィブラート系薬剤の併用に関する添付文書改訂の要望書」が厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課に提出された。これを受け、平成30年度第8回医薬品等安全対策部会安全対策調査会(平成30年9月25日開催)において、腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者におけるスタチンとフィブラートの併用に関する注意喚起について審議を行った。その結果、腎機能障害や横紋筋融解症に関する注意喚起を継続した上で、「原則禁忌」及び「原則併用禁忌」から「重要な基本的注意」等に注意喚起を移行することが適切であると判断されたため、使用上の注意を改訂した。

改訂内容につきましては、平成 30 年 11 月発行予定の「医薬品安全対策情報(DSU)No.274」に掲載されます。また、改訂後の添付文書は弊社ホームページ (<a href="http://www.tatsumi-kagaku.com/">http://www.tatsumi-kagaku.com/</a>) 及び独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ホームページ (<a href="http://www.pmda.go.jp/">http://www.pmda.go.jp/</a>) に掲載されますので、併せてご利用下さい。